

特別支援教育における道徳について
～特別支援学級での道徳授業の取り組み～

大阪市立大正東中学校 酒井 一

1. はじめに

大正東中学校では6年前、中教研全市教育研究発表会道徳部において本校で全学年一斉の道徳授業が行われた。その際、通常学級在籍生徒と特別支援学級在籍生徒すべての子どもたちにとって意義ある授業内容にしようと当時の道徳推進教師の先生とも話し合った結果、通常学級在籍生徒とは別に特別支援学級在籍生徒への道徳授業を行うことにした。それが本校での特別支援学級在籍生徒への道徳授業の始まりである。それから毎年試行錯誤を繰り返しながら取り組み続けてきた実践内容の報告と、また、今回は中教研道徳部の特別支援教育班において、私と共に特別支援教育道徳に取り組んで頂いている生野中学校河村先生、港南中学校竹下先生、お二人の取り組み内容と合わせて報告したいと思う。

2. 内容

本校では主に国数英などの授業を抽出している生徒を対象として道徳の授業を行っている。今年度の対象生徒は10名である。対象生徒は、内容理解の程度に応じて4班編成で行っている。以下に対象生徒の実態を記載する。

・授業班ごとの生徒実態

A班（5人）小学校高学年～中学校1年程度までの授業内容はある程度理解できる。
発問に対する自分の考えを発言や記述で示すこともできる。

B班（2人）小学校中学年程度の授業内容は理解できる。発問に対する自分の考えを発言や記述で示すこともできるが、内容に対する自分の思いを書くことは難しい場合が多い。

C班（2人）小学校低学年程度の授業内容は理解できる。簡単な発問に対する自分の考えを発言したり記述したりして示すことはできる。

D班（1人）年中児（4歳）～年長児（5歳）程度の理解力。簡単な授業内容はある程度理解できる。話の内容に関する発問等に対してはある程度答えることはできるが、自分の考えを発言したり記述したりするのは難しい。

3. 道徳授業の取り組み内容

各班の授業を教員がローテーションを組み順番に行っている。今年度は支援学級7人の教員で4班の授業を回している。授業を行った教員は、授業内容（教材のコピーや板書内容を写したもの）、生徒の様子を書いたプリントを記入し授業内容をファイルに綴じている。それにより各教員がいつでも授業内容を振り返ることができ、各班の教材研究の参考にもなるようにしている。以下は各班の取り組み内容である。

・授業班ごとの取り組み内容

A班（5人）小学校、中学校の道徳教科書や、教員独自に用意した道徳教材を用いて授業を行う。

【進め方】

読み物範読⇒発問・発言（ワークシートを書く場合あり）⇒感想等をワークシートに書く

B班（2人）小学校の道徳教科書や、教員独自に用意した道徳教材を用いて授業を行う。

【進め方】

読み物範読⇒発問・発言（ワークシートを書く場合あり）⇒感想等をワークシートに書く

C班（2人）小学校の道徳教科書や、NHK for school の動画を視聴したり教員独自に用意した道徳教材を用いたりして授業を行う。

【進め方】

読み物範読／視聴⇒発問・発言（ワークシートを書く場合あり）⇒感想等をワークシートに書く

D班（1人）絵本やNHK for school の動画を視聴したり教員独自に用意した道徳教材を用いたりして授業を行う。

【進め方】

読み物範読／視聴⇒発問・発言⇒感想等を聞く（ワークシートに書く場合あり）。

4. 中教研道徳部（特別支援教育班）との共同取り組み

・港南中・生野中との連携した取り組みについて

今年度より中教研道徳部において新たに特別支援教育班を立ち上げ、大正東中学校

生野中学校、港南中学校の3校により特別支援学級での道徳授業に取り組んでいる。

以下に生野中学校、港南中学校それぞれの取り組み内容を紹介する。

5. 最後に

6年前をきっかけとして、特別支援学級での道徳授業に取り組み始めましたが、昨年度までは対象生徒が少ない年度もあったり、また新型コロナウイルスの影響により思うように進めることができなかつたりということも多々あった。今年度も引き続き、新型コロナウイルスの影響はあったものの、新たに班別の体制を組み、それぞれの班に合った道徳内容を日々模索しながら実践することができた1年であった。

成果としては、やはり子どもたちに合った道徳内容で取り組むことで、通常学級では見られなかった積極的な発言や、自分の思いをワークシートに書いてくれる姿が多く見ることができたことである。

今後の課題としては、教材の選定、内容項目の偏り、教材研究の進め方などが挙げられる。これからも子どもたちのためにより良い道徳授業づくりに取り組んでいきたいと思う。